

ノクセラー TS の低イオウ配合について

(2)

前回はノクセラーTS の低イオウ配合によるムーニースコーチタイム、引張強サについて

○ムーニースコーチタイムはノクセラーTS の量よりもイオウ量により左右され、TT配合に見られるようなスコーチの危険性は少なくなる。

○引張強サはノクセラーTS の量とイオウ量の増加につれ増大し、その値は加硫時間によりあまり変化しない。以上のようなことを御紹介しました。

今回は伸びと 300%引張応力およびカタサについて御報告します。

2.2.2. 伸び (図4・図5)

ノクセラーTS が多量の場合はイオウ量の増加と共に伸びは低下する傾向を示している。ノクセラーTS 少量

の場合は変化は少ない。

2.2.3. 300%引張応力 (図6・図7)

引張強サと同じようにノクセラーTS の量、イオウの量が共に増加すると 300%引張応力も増大し、その値は加硫時間によりあまり変化していない。

イオウ量が、0.9PHR、ノクセラーTS 量が1.0~2.0 PHRの範囲でTT加硫物、DM加硫物より高い引張応力を示している。

2.2.4. カタサ (図8・図9)

引張強サ、300%引張応力と同じようなことが言え、ノクセラーTS の量、イオウ量が増加するにつれカタサも増大している。

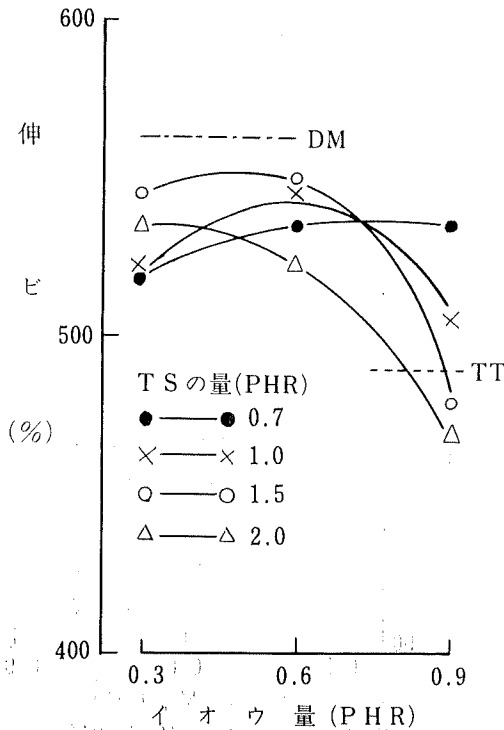


図4. 伸び・20分加硫

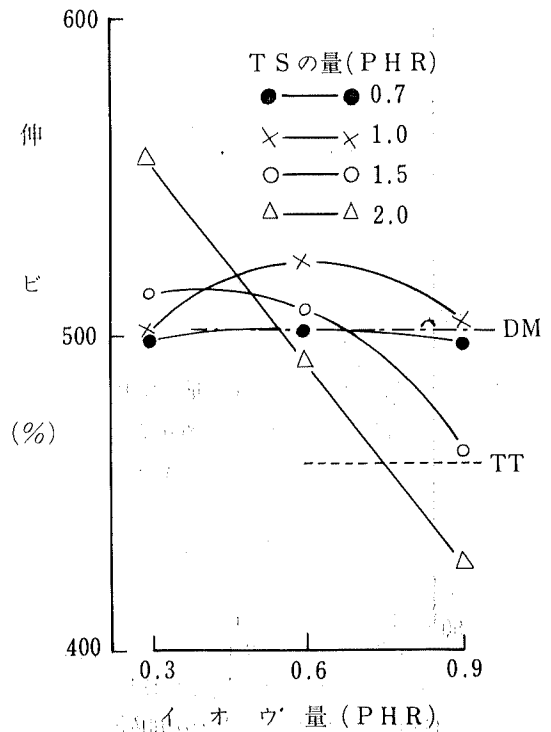


図5. 伸び・40分加硫

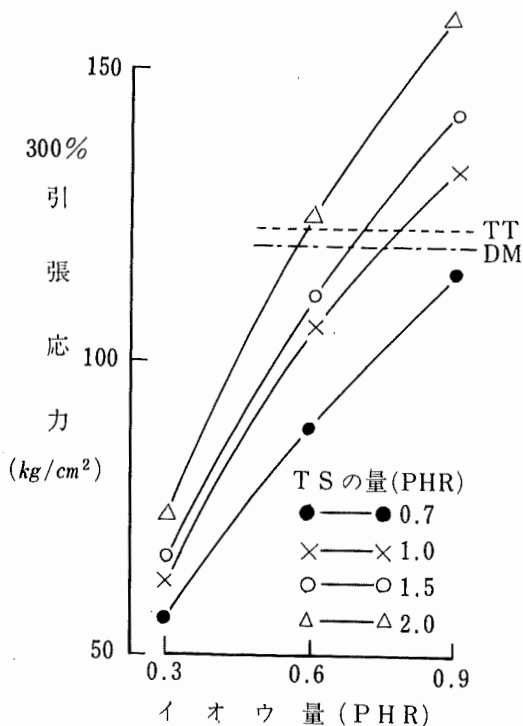


図 6 . 300%引張応力・20分加硫

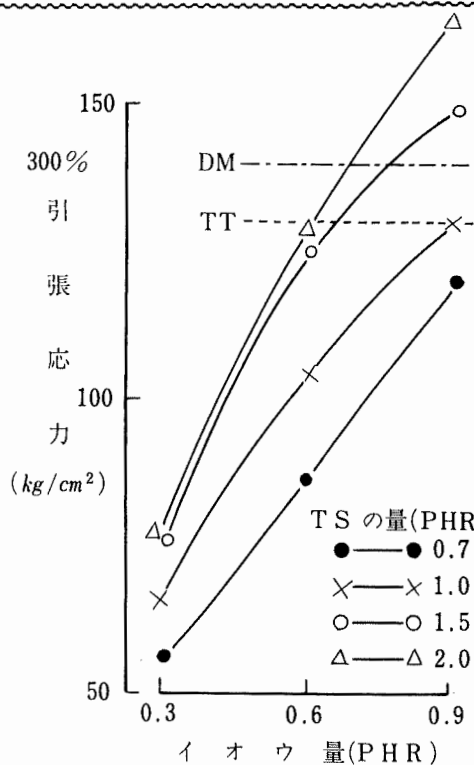


図 7 . 300%引張応力・40分加硫

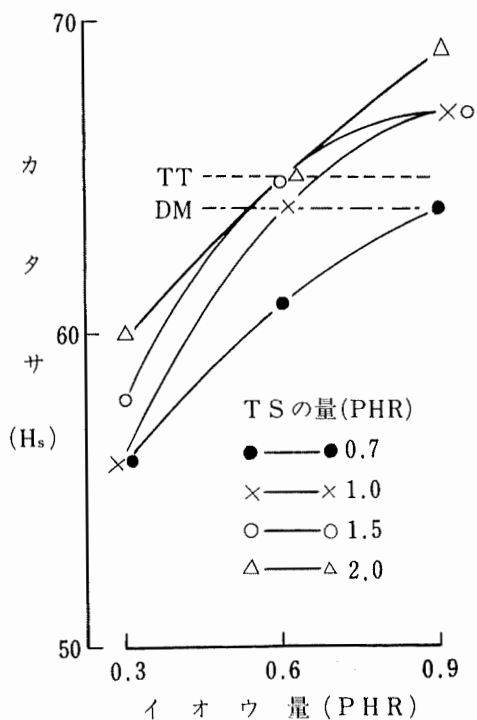


図 8 . カタサ・20分加硫

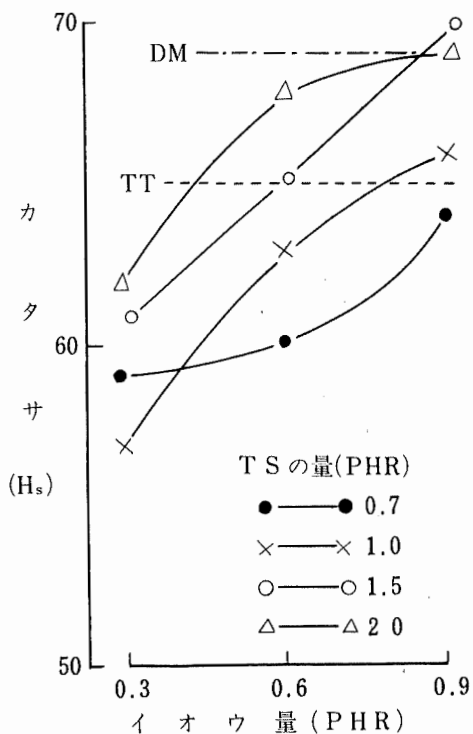


図 9 . カタサ・40分加硫